

勿凝学問 274

野党だったから情報が不足していたと卒論に書いて、出直しを命じられた不憫な学生

2009年12月27日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

卒論の季節である。12月25日に、研究室に呼ばれた学生。彼の卒論のテーマは、「イギリスのマニフェスト形成過程で利害の調整はいかにして行われているのか？——党職員と一部の政治家が短期間でマニフェストを作る日本との相違点」である。彼の文章の中に、次があり、僕から、「アホか、お前は。俺は、野党以上に情報をもっていないのに、民主党が確信犯的にウソをついていることが分かっていた。これをどう説明する？」と言われ、出直しを命じられる。

【卒論の中の文章】

日本の政治では、マニフェストに提示された政策とは異なる政策が実行される。なぜこのようなことが起こるのか。大きく2つあると考えられる。第1は、政策を作っているのは主に官僚であるため、野党の情報が絶対的に不足しており、野党は、政策に関する満足な議論や研究を進めることが出来ず、実行可能性のない政策をマニフェストに載せることになる。

バートンが卒業できなくなっても、巧みに大衆を騙したかつての野党の論法のせいだと思ふことだな。お前が悪いわけじゃない——冬休みの間、励むことだ。